

新任薬剤師研修会を終えて

西埼玉中央病院 薬剤部 大熊 玲子

出身大学：明治薬科大学（平成27年）

興味のある分野：がん領域

私は、平成27年4月より埼玉県所沢市にありま
す西埼玉中央病院に採用になりました。入職から
3か月が経ち、調剤室の業務に加え少しずつ病棟
業務も始まり、充実した日々を送っております。
6月に参加させていただいた新任薬剤師研修会
では、薬剤師として安全な医療を提供していく上
での意識や方法を学ぶことが出来た貴重な機会
となりました。

研修の前半は「医療安全とは～安全を守るため
に私たちが考えるべきこと～」という講演があ
り、「医療安全とは」、「なぜ人は間違えるのか」、
「医療安全で大切なもの」という内容でした。公
演の中で認識が新たになったこととして、医療
における“安全”を“受け入れることの出来ない
リスクがないこと”と考えるということでした。未
熟ながら私も一薬剤師として、医療者とは絶対に
間違えてはならない立場であるという考えを持
っております。しかし、ヒューマンエラーを完全
になくすることは不可能であるため、“リスク”を
“受け入れることが出来るレベルに留める”とい
う異なる見方が出来ることを知り、新たな考え
方を持つことが出来ました。リスクを最小限にする
ために自分の果たすべき注意義務を怠らないこ
と、ルールを遵守することを徹底していきたいと
強く思い、改めて身を引き締め直しました。

後半はグループワークとして「Team STEPPS」
という医療安全の推進に向けたチームトレーニング
の戦略と方法についての実践的な研修でした。
ワンショット投与しない薬剤をワンショットする
ように研修医から指示を出された1年目の薬剤師
がどう対応するかというロールプレイを行いました。
私は1回目のロールプレイでは薬剤師役と医

師役のロールプレイを評価する立場になりました。
薬剤師役は添付文書を確認して、ワンショット
すると危険であるということ、正しい使い方
はないということはしっかり説明することが出来
ていました。しかし、研修医役は指導医から指示
されたままに薬剤師にオーダーしたという背景が
あり、その説明だけでは状況があまり呑み込め
ず府に落ちないといった感じでロールプレイが
終わりました。客観的に見てわかったこととし
て、自分が伝えなければならない点ばかりに気
が集中すぎて、それ以外の問題点や配慮の仕
方に目を向けることが出来ていなかったと感じ
ました。これは今までの自分自身の仕事を振り
返っても同じであったと気づかされ、反省した
点でもありました。一つの問題に対して一つの
側面から答えを考えるのではなく、多方面から
考えしっかり全体像を把握することが大切であ
るということを学びました。また、状況・背景
・評価・提案の順に話をする円滑なコミュニ
ケーションを進めることができる“SBAR”とい
う手法も学び、研修以来少しずつ意識するよ
うになりました。これから実践で役立ててい
きたいと思っております。

この研修を終えて、医療安全に対して難しい
ものとして消極的に考えていた意識が少し変
わりました。また、苦手としているコミュニ
ケーションも新たな手法を学ぶことができ、
自信に繋がるスキルを得ることが出来たと
感じております。日常の業務においても患
者さんや先輩方から学ぶことは多くあり、
日々勉強であることを痛感する毎日であ
ります。今回の研修も日常の小さな経験も
無駄にせず吸収し、患者さんの安全で最
適な医療のために努力していく所存です。